

令和7年度刈谷市地域福祉計画懇話会 議事録

- 1 日 時 令和7年10月31日（金）
午前10時00分～午前11時20分
- 2 場 所 高齢者福祉センター2階大集会室
- 3 委 員（敬称略）

【出席者】

	団体等名	役職等名	氏名	備考
1	愛知教育大学	准教授	佐野 真紀	会長
2	自治連合会	代表	加藤 三樹	
3	刈谷市民生委員・児童委員連絡協議会	会長	中村 祐子	
4	刈谷市ボランティア連絡協議会	会長	矢田部 壽子	
5	刈谷市身体障害者福祉協会	会長	石川 恵美子	
6	子育てネットワーカー刈谷「エンゼル」	代表	箕浦 ひろみ	
7	北部地区社会福祉協議会	会長	山村 実	
8	南部地区社会福祉協議会	会長	羽谷 周治	会長職務代理者
9	中部地区社会福祉協議会	会長	面高 俊文	
10	刈谷市赤十字奉仕団	副委員長	加藤 裕子	
11	刈谷市役所福祉健康部	部長	加藤 直樹	

【欠席者】

なし

【傍聴人】

なし

【事務局】※参加者のみ

	団体等名	役職等名	氏名	備考
1	福祉健康部	政策監	杉浦 隆司	
2	福祉健康部 福祉総務課	課長	加藤 幹雄	
3	福祉健康部 福祉総務課	課長補佐	加藤 主	
4	福祉健康部 福祉総務課 総務係	係長	川井 武	
5	福祉健康部 福祉総務課 普及支援係	係長	西岳 浩司	
6	福祉健康部 福祉総務課 総務係	主任主査	清水 景子	
7	福祉健康部 生活福祉課 生活支援係	係長	霜山 広大	
8	社会福祉協議会	事務局長	岩見 真人	
9	社会福祉協議会 総務課	課長	寺田 浩司	
10	社会福祉協議会 総務課	課長補佐兼 総務係長	藤沼 勝由	
11	社会福祉協議会 総務課 人事係	主任主査	松本 龍	
12	社会福祉協議会 総務課 人事係	主事	鮎澤 一樹	
13	社会福祉協議会 事業推進課 事業係	係長	梅本 秀之	
14	社会福祉協議会 生活支援課	課長補佐	神谷 節子	

4 議題

※会議の成立について **資料1**により説明

(1) 第4次刈谷市地域福祉計画の総括について **資料2**・**資料3**

(2) 第5次刈谷市地域福祉計画について **資料4**・**資料5**

5 意見・質疑等

【議題 1】第4次刈谷市地域福祉計画の総括について

※ **資料2**・**資料3**を事務局より説明

○ 会長

ただいまの説明について、意見などはあるか。

○ 委員 A

施策の目標は概ね達成しているが、成果指標が達成されていないのはなぜか。原因は新型コロナウイルス感染症の影響とのことであるが、それだけではないのではないか。特に基本目標2の「地域のつながり」「民生委員の認知度」「社会福祉協議会の認知度」について、その指標を達成させるための施策が適したものかどうか、活動と結果が結びつく指標としてほしい。

○ 事務局

昨年度の懇話会においても、第4次計画の総括及び第5次計画の策定について様々な意見をいただき、それに応じた指標となるよう設定した。

新型コロナウイルス感染症の影響については、一因であったことは確かだが、それ以前からの、地域活動の縮小、つながりの希薄化があったことも要因であると考えている。それらの課題解決に向けても活動していきたい。

【議題 2】第5次刈谷市地域福祉計画について

※ **資料4**・**資料5**を事務局より説明

○ 会長

ただいまの説明について、意見などはあるか。

○ 委員 A

3点、質問とお願いである。

1点目は、目標値を達成するために、重点的に何に取り組むのか、どの施策が目

標値達成のために有効なのか、などメリハリをつけて計画を推進していただきたい。

例えば、基本目標 2 の成果指標「刈谷市の地域福祉が進んだと感じる割合」は“感じる”という主観的なものであるが、明確に変化を感じさせる必要がある。新たに様々な施策を実施していると思うが、それが変化として十分に認識されていないのではないか。

また、基本目標 3 の成果指標「刈谷市の福祉水準が高いと感じる割合」についても“高い／低い”はどのような評価軸でジャッジするのか、何かと比較する必要があるため、同程度の人口規模の他市と比べて、具体的に、刈谷市は何がどれだけ進んでいるのかなど、PRの仕方に工夫が必要である。

2 点目、基本目標 3 のユニバーサルデザインについて、ハード面は、法律で定められていることであり、やって当たり前のことである。「刈谷市として今後どうしていきたいのか」が分かりにくいため、当事者に実際に改善すべき点をチェックしてもらい、提案してもらうことが必要であると思う。また、ハード面は概ね整っているが、ソフト面でのバリアフリーがより重要であり、改善してほしい。

3 点目、社会福祉協議会の認知度が非常に低いため、キャラクターの活用など、認知度アップについて検討してほしい。

○ 事務局

1 点目について、重点的に取り組む内容としては、「人づくり」として子どもへの福祉教育を積極的に実施していきたい。また、地域活動をしている方が活動しやすいよう支援を行うことで、地域福祉活動の担い手確保につなげていきたいと考えている。

また、「地域づくり」では、まずは“顔の見える関係づくり”を推進していきたい。地域の中で気軽にあいさつができる、ちょっとした困りごとを相談できる、などの関係性を築いていくため、懇話会委員の皆さんをはじめとする地域福祉活動を進めてくださっている方々の活動の充実を図り、盛り上げていきたいと考えている。

「体制づくり」については、重層的支援体制整備事業を進め、8050問題など、制度の狭間の方などへの支援ができるよう体制を整えていきたい。そして、事業を進めることで、市民の方に、施策の理解や変化を認識していただき、成果指標の達成につなげていきたい。

広報については、SNS等を活用し効果的に周知を図っていきたい。

心のバリアフリーについては、積極的に福祉教育を実施することで、推進していくと考えている。

社会福祉協議会の認知度については、「名前も活動も知っている」という内容になっており、活動と社会福祉協議会が繋がっていない場合が多い。「ひまわり」という名称で認知されている方が多いため、それも踏まえ、活動の周知を行う必要がある。また、Instagramも有効活用していきたい。

○ 会長

行政としては、様々な事業を広く周知しなければ、という思いで様々な事業の紹介をしていただいたが、市民目線としては、目についた部分や積極的にPRされている内容が印象に残るのではないかと思う。

「刈谷市といえば○○」という部分が弱いと感じるため、「地域福祉といえば○○」のように市民が興味を持てるきっかけがあればよいと思う。特に福祉教育の充実については、子ども向けの認知症サポーター養成講座の実施などは、とても良い取組であるため、市民全体に周知してほしい。また、指標の目標値を達成するために、具体的に市民が何を感じられたらよいのか、を意識し工夫していくことが重要であると思う。

○ 委員 A

「成年後見制度利用推進計画」は、今後非常に重要な内容であり、2030年には現在の団塊の世代が80代となり、単身者も多くなるため、見守り体制が重要なとなる。今から準備を行う必要があることから、今後、中部地区社協では、エンディングノートづくり講座などを実施予定である。

○ 事務局

今後、成年後見制度の利用者が増加することが見込まれるため、市民後見人などの担い手を増やすため養成講座を実施していく。愛知県においても、昨年度より市民後見人養成講座が開始された。刈谷市の昨年度の受講実績は0人であったが、今

年度はL I N E の活用など周知方法を工夫し14人に受講して頂けた。ただし、受講者に対し今後のフォローアップや活躍の場については整備が進んでいないため、早急に進めていく必要がある。

死後事務等については、長寿課にて検討しているとのことである。

○ 委員B

地域活動に関わる身として、今回の懇話会に参加し、地域団体同士の連携の場である福祉委員会の活動がとても重要であることを感じた。

○ 事務局

各地域の団体が交流を深め、活動を進めていただいていることは大変ありがたい。引き続き、市と社会福祉協議会が連携して支援を行っていきたい。

○ 会長

懇話会は公的な会議であり、議事録が残るため、事務局としては確定していない内容については伝えられないこともあるが、行政として様々な施策を考えていると思われるため、引き続き計画の推進を行ってほしい。

【事務連絡】

- ・ 以降、年に一度懇話会を開催し、取組状況の評価を行う予定。

○ 会長

以上で閉会とさせていただきたい。